

直前 新共通テスト

筆記・リスニングの配点均等、4技能重視

授業内外で討論する機会を

これまで「英語を活用し、英語で討論できる生徒」の育成を目指し、授業内外でその環境づくりを実践してきた。その一部を紹介したい。

英語での討論には「インプット」→「話すネタづくり」→「アウトプット」という一連のプロセスを踏まえることが非常に大切である。生徒が英語を話さなければならなくなる、または話したく

藪内 章彦

兵庫県立姫路西高校主幹教諭



なるような環境づくりが必要になる。

そこで「コミュニケーション英語」では、教科書の内容把握の後、音読やシャドーイングを繰り返し、各パート終了時に返して、各パート終了時には本文の内容に関する写真を見せ、それを自分の知っている英語で説明するリレーリングを行う。

レッスン終了後に内容に関するインタビュートテストを英語で実施していき、最後の質問は「あなたが筆者の立場なら、この話の後、どのような行動を取りますか」「SDGsについて学びました。環境のためにあなたが行っている行動を説明しなさい」など必ず

授業提案

共通テストでは、英語の民間試験の活用が延期された。ただ、リスニングとリーディング(筆記)の配点が均等になるなど、大学入試全体を通じた4技能重視の方向性は変わらない。

英語



山本 崇雄

新渡戸文化学園英語科教諭

大学入学共通テストでは、英語民間試験の活用は見送られたが、問題作成方針や出題方法には変更はない。発音・アクセントなどを単独で問う問題や、単語を並べ替えて文章を作る「語句整理」の問題は出されず、配点は「リーディング(筆記)」「リスニング」ともに100点となる。

各大学は、二次試験の出題方針の再考が必要に

ウェブサイト、協働して読もう

なるとの見方もあり、「スピーキング」「ライティング」を取り入れる可能性もある。

こうした状況では、共通テストの「リーディング」「リスニング」に対応できる力をベースに「スピーキング」「ライティング」も視野に入れた授業デザインが求められる。「リーディング」対策として、二つの視点が大切になる。



授業では生徒が教師に代わって文法などを解説する。伝えることを意識することで、理解が定着する

いやグループワークを通じて課題に取り組んだり、探究活動の場面で知識・技能を活用したりしている場面が設定された。問題が多く見られる。題材がウェブサイトや新聞を見ると、生徒が話し合

英語の使用場面を意識して課題に取り組んだり、探究活動の場面で知識・技能を活用したりしている場面が設定された。問題が多く見られる。題材がウェブサイトや新聞を見ると、生徒が話し合

よると、新たに「連動型」の問題(連続する複数の問い)において、前問の答えとその後問の問いの答えを組み合わせて解答させ、正答となる組み合わせが複数ある形式。実際に英語を読む中で、事実(Fact)と意見(Opinion)の違いに着目させる、といった活動が求められる。ディベートなどの場面を想定した出題も見られる。論拠を持って意見を話したり、書いたりする経験が重要になる。

本番まで、語彙力をいかに高めるかが重要になる。この時期に語彙力をいかに高めるためには、単語集を使うことも一つの方法だ。私が授業で取り入れている単語集の使い方を紹介したい。

まずは自分で、できるだけ早く全ての単語を学習させる。少しずつコツコツやる方法より、100語くらいを一気に学習し、できるだけ早く1冊を終わらせ、2冊目、3冊目に入らせる。読んで理解できる単語が少しくも増える「読める」につながる。

確認は少しずつ小テストをするより、ペアで進捗を競い合ったり、お互いに問題を出し合ったりする協働学習の方が効果的である。授業の最初の5分に、単語集を使ったペアワークを入れると、モチベーションがキープできる。この時も4技能を意識して、発音・スペルの確認や、覚えた単語を使った例文作成を忘れずに。



課題研究発表会に臨む生徒。英語による質疑応答が繰り返される

インハウンドの旅行プランを作成させる。テレビ会議システムを通して視覚的資料を使い、英語でプレゼンを行い、その出来栄を競うのだ。

生徒たちは、7月にチームを編成し、10月の決勝まで、SNSなどで3カ国をつないで議論を交わし、旅行プランやプレゼンを完成させていく。おのずと英語での議論が求められる仕掛けになっている。

本校は2014(平成26)年度から5年間、スーパーグローバルハイスクールの指定され、課題研究を積極的に進めてきた。近隣の高校のALTを多数招き、発表後に英語での質疑応答を行って

く育成させることができ、知的好奇心が刺激され、ディベートの楽しさに夢中になる生徒も多く現れる。

このようにクラスの枠を超え、学年全体、学校全体の行事につなげてい

授業以外では、本校主催の「データサイエンスコンテスト」も環境づくりの一環である。台湾、オーストラリア、日本の高校生で構成したチームを組み、データに基づ

で相談し、適切な答えを英語で返していくという高校生としてはかなりハイレベルなものになって

毎年恒例となっているので、生徒たちも英語プレゼンだけでなく質疑応答にも相当な時間をかけて準備するのだが、質問者や回答者の英語のやりとりは今では発表会の見せ場になっている。

35年前、私が高校生の頃と比較すると、生徒たちが、英語を実際に活用し、英語で議論を交わす機会は確実に増えた。授業内外で英語4技能を伸ばす仕掛けが、多くの学校で工夫されている。

Society5.0の時代に、日本人のICT活用能力、英語運用力は先進国の中で遅れを取っているといわれている。日本人が積極的に英語で議論し、時にはリードしていくことが当たり前となるような時代が来ることを目指した授業や環境づくりを進めたい。

※ 「直前 新共通テスト」では、「夏の教育セミナー」と連動して大学入学共通テストに向けた授業提案や最新情報を掲載します。

第7回 2020年実施

夏 逆境に勝つ! 大学入試改革の教育セミナー

主催: 日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ (東進ハイスクール・東進衛星予備校)

開催期間 2020年 8月10日(月・祝) ~ 16日(日)

激動の新入試。今おさえおきたい最新情報を!

大学入学共通テスト目前! 改めて「大学入試改革」について理解を深めませんか?

約5,000名の先生方が毎年参加している夏恒例のセミナーです。

好評受付中! お申し込みはWEBで!

お申し込みはこちら

最新情報は順次公開 summer-seminar.com

夏の教育セミナー 検索

参加無料

30種類以上の講演が視聴可能!!

全国の高等学校の先生を対象に、この夏8月に、WEBセミナーで開催!

- 配信内容(予定)
- 1 文科省や大学入試センター担当者による、大学入学共通テスト解説
 - 2 全国の大学によるアドミッション・ポリシーや入試方針の解説
 - 3 高校の先生による共通テスト解説(英・数・国)
 - 4 高校の先生による共通テストに向けた授業実践例(英・数・国)
- 学校や先生方のご自宅から、期間中ご都合の良い時間にオンラインで参加できるWEBセミナー形式です。パソコン・タブレット・スマホから講演動画を視聴できます。